大学入試センター試験および国公立大二次・私大

大学入試
分析と対策

英語

2019
平成31年度

学校法人　河合塾
英語科講師　江本 祐一

啓林館

この冊子の内容は次のURLからもアクセスできます
http://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/kou/english/

1 センター試験

（1）筆記試験の概要

2019年度の筆記試験は，実践的なコミュニケーション能力とさまざまな文章の読解能力を問うという現行課程の方針に沿ったものであった。大きな変更点は，やや特殊な読解問題が出題されていた**第５問**で典型的な物語文が出題されたことである。総語数は，2018年度の4,317語に対して4,221語で，2017年（4,335語）をピークにわずかではあるが減少傾向にある。総マーク数は2018年度と同様で54。大問ごとの配点は2018年度と同じで，音声系14点，文法・語法系47点，読解系139点。平均点は2018年度の123.75点に対して123.10点で，ほぼ昨年並み。従来に比べると読解系の問題の配点が微減しているとは言え，読解力重視の傾向に変化はない。

（2）設問別分析

第１問

2018年度同様に，**A**が発音問題，**B**が音節分けのないアクセント問題で，**A**・**B**ともほかの３つと異なるものを選ぶ問題。いずれの単語も発音・アクセント問題で問われることの多い典型的な問題である。いわゆるカタカナ語が多く出題されており，そのカタカナ語での失敗が目立つ，という点でも2018年度と同じ傾向が見られる。あくまで河合塾の再現データに基づく数字（以下正答率はいずれも同様）であるが，blood / choose / mood / proofの下線部の発音が問われている**A問２**の正答率は９割を超えているのに対して，stone / story / total / voteの下線部の発音を問う**A問３**の正答率は１割程度であった。不正解でもっとも多いのはvoteを選んだもので，stone，totalをそれぞれ「ストーン」「トータル」とカタカナ読みしたことが原因と考えられる。カタカナ語であるがゆえに二重母音と長母音の区別ができていないことがうかがえる。アクセント問題は概ねよくできている。発音・アクセント問題に典型的な単語は言うまでもなく，カタカナ語も含めて，日頃から正しい発音，アクセントを心がけておくことが必要である。

第２問

Aでは2014年度以降２か所の空所補充の問題が引き続き出題されている。語彙にせよ，文法や語法にせよ，斬新な問題が出題される印象の**第２問A**であるが，ここ数年は，普通の文法・語法問題という印象が強い。2019年度も標準的な内容の出題であったが，いくつか際立って正答率の低い問題があった。

第２問　A

問２　If you are in a hurry, you should call Double Quick Taxi because they usually come in [9] time.

① any　② few　③ no　④ some

問10　The police officer asked the witness (　A　) the situation as (　B　) as possible. [17]

① A：describing　B：accurate
② A：describing　B：accurately
③ A：to describe　B：accurate
④ A：to describe　B：accurately

ここで取り上げた問題は，正答率が３割台の問題。いずれも現役生と卒業生の正答率の差がおよそ10ポイントついている。**問２**では①②のマーク率がいずれも3割程度あった。in no time「すぐに」というイディオム的な表現の知識が欠けていたようだ。at any time「どんな時でも」との混同もあったと思われる。**問10**ではask O to *do*という表現の知識と，英文の構成上副詞が必要であることの知識が求められている。③の選択率が５割前後で，accurateとすべきところをaccurateとしていることがわかる。2018年度にも指摘した通りであるが，品詞に関する意識が欠如しているようである（2018年度はgo downstairsのdownstairsを問う問題）。おそらくdescribe as accurate as possible（×）と言っても相手に通じるであろうが，やはり正確な表現を身につけることがコミュニケーションには必要であろう。これらの問題に限らず，2019年度は**第２問A**の出来がやや低調で，2018年度に見られた正答率が９割を超える問題はなかった。なお，これまで出題の多かった時制，関係詞の出題がなかったことは，特記すべきことであろう。

Bの語句整序問題は，例年度同様に３問とも６つの選択肢で対話文形式の出題。**問３**は卒業生で５割程度，現役生では3割台の正答率となっている。

第２問Ｂ　問３

Junko：The party we went to last night was very noisy. My throat is still sore from speaking loudly the whole time.

Ronald：Yeah. It can sometimes ____ [22] ____ ____ [23] ____ in such a crowded place.

① be　② difficult　③ heard
④ make　⑤ to　⑥ yourself

[23]に①のbeや③のheardをマークしたミスが多く，前者はmake yourself be hears（×），後者はmake heard yourself（×）と考えたことがうかがえる。make *oneself* heardは基本的な表現だけに確実に得点したいところである。なお，この問題はややトリッキーなところがあり，It can sometimesの後が空所になっているために動詞としてbeがまず必要であるが，この点を見逃してbeの置き場所に困った受験生がmake yourself be heard（×）のようなミスを犯したのではないだろうか。問題文をよく読むことが必要であることは言うまでもない。

Cの応答文完成問題は，2018年度同様に，従来と比べると，発話数，全体の語数ともに増えたもので，設問箇所に至るまでの文意を把握する必要性が高まっている。**問１**の正答率が低く，４割程度。誤答の多くは，It can't be helped that there are more people while the most popular area is closed.としたもので，対話文全体の意味が把握できていないことが原因の誤りである。

第３問

Aの不要文選択問題は，2018年度とは異なり，選択肢となっている文はすべて連続している問題が出題された。2018年度は比較的解答しやすい問題で，いずれも８割を超す正答率であったのに対して，2019年度は５～６割程度の正答率にとどまっている。全体の話の流れをきちんと把握しなければならない点は例年通りであるが，2018年度ほどわかりやすい問題ではなかったことがその原因であろう。ありきたりではあるが，１文１文のつながりを意識した精読の必要性を痛感させられる問題であった。「合衆国に見られるコンクリート製の巨大な矢印」，「動物も都市生活と田舎生活では求められる技術が異なる」，「チューダー朝の時代の正式な晩餐feastについて」というテーマの英文が出題された。

Bの発言の主旨選択問題は，「退職する恩師への贈り物」についての生徒たちの相談からの出題。発話者は2018年度の７人から６人に減った。３つの設問内容は，[30]は直前の発言の要約，[31]は直前の２人の発言内容の要約，[32]は発言者全員の発言内容の要約を求めるもので，[30]，[31]は正答率が８割前後であるのに対して，[32]は正答率が５割を割っている。これは2017年度，2018年度と同じ傾向で，複数箇所を照合しなければならない問題では，正解を得るのに苦労する受験生が多いようである。

第４問

Aでは「絵に描かれる食品の国別比較」を述べた説明文とグラフを用いた問題が出題された。2018年度とは異なり，グラフ中の項目を埋める問題の出題はなかった。また，2014年度から出題のあった最終パラグラフに続くパラグラフのテーマを答えるという出題もなかった。全体としては解答しやすい問題だった。

Bは「ある地域の城に関する案内」を用いた出題で，2018年度同様に紙ベースのものが用いられ，計算問題も出題されている。これも全体としては解答しやすい問題だった。

第５問

2015年度まではメールやブログを用いた出題，2016年度，2017年度は物語文の読解問題，2018年度は探索日誌の抜粋の読解問題であったのを受けて，2018年度は「ガーデニングから学んだ経験」をテーマにした典型的な物語文の出題。複数のパラグラフにまたがって情報を集めなければならない問題も出題されている。**問４**ではbug-freeの意味が問われているが，本文の読みがいい加減だとAll bugs have been killed.という選択肢を選んでしまいかねない。ただし，この**問４**も含めて全体の出来はよく，全体としては８割程度の正答率になっている。なお，同じ物語文でも2017年度に出題のあったような，本文中にはっきりと記述されていない登場人物の心情を問う問題の出題はなかった。

第６問

2018年度の「科学技術の進歩がもたらすものの見方の変化」に続いて，「物と情報の流通経路の発達」という科学系の内容の論説文からの出題。2018年度同様に，Aでは語句の意味類推問題のほか，パラグラフ単位の内容一致，Bではパラグラフごとの要旨の選択問題が出題された。2018年度に出題のあったタイトルの選択問題の出題はなかったが，全体のmain topicを問う問題が出題された。2018年度は語句（archaic）の意味を問う問題の正答率が５割程度であったのに対し，2019年度の語句（imperative）の意味選択問題は９割近い正答率であった。また，Bはどの設問も９割を超える正答率と

なっている。

☆　☆　☆　☆　☆

１つのパラグラフ内で文と文のつながりを考えながら読み進め（**第３問A**），１つパラグラフが終わるごとにその内容を確認し（**第３問B**）,１つのパッセージ内ではパラグラフとパラグラフのつながりを考えながら読み進める（**第６問B**），といういわば当たり前の読み方が求められ，またそうすることで高得点が得られることが，センター試験の読解問題の特徴である。このような読み方をすることで，全体の文意がとれるため，細部に対する理解も深まり，未知の表現が出てきても，立ち往生することなく読み進めることができる。

例年，本稿で指摘している通り，読解力の強化には，文法的知識と語彙力を高めるとともに，論説文をはじめ，エッセイや物語文，さらには広告文やウェブサイトの記事など，さまざまなタイプの英文を読むことが必要である。その際にはよくわからない部分があっても，少なくとも１つのパラグラフは最後まで読み切り，全体の内容を把握する訓練が効果的であろう。そのためには，比較的やさしめの入試問題でパラグラフごとに内容一致問題がついたものなどを利用することが考えられる。また，読解系の授業の予習の際は，あらかじめ生徒に制限時間を告げておき，まずは辞書なしで英文を読み，設問に答えさせる練習，つまり「予習は模擬試験だ」という姿勢での練習も効果的であろう。私自身の場合，生徒には，「予習段階で辞書を使う際は調べたい単語の半分だけを調べ，調べた単語は絶対にその場で覚えること。残りは文脈から推測すること」という指導をしている。外国語である以上，未知の単語があるのは当然のことで，それにいかに対応するかという訓練をさせることが必要である。また，一度読んだ英文を繰り返して読む，という訓練を嫌がる生徒もいるが，既習英文を繰り返して読むことで，読解のスピードが上がるとともに，語彙力の定着にも効果的である。授業で扱った英文や自分が問題集等で読んだ英文は繰り返して読むように指導すべきであろう。これらはセンター試験に限らず，国公立大の二次試験や私立大の試験対策にも有益なはずであるし，たとえ入試で英語が必要なのはセンター試験だけ，というような生徒でも総合的な力が高まるのではないだろうか。

リスニング試験

2019年度も，2016年度の大きな出題形式の変更を引き継いだ出題であった。読み上げられた語数は2018年度の1,144語に対して2019年度は1,165語で，ほぼ同じであるが，設問・選択肢の語数は575語から645語に増加している。2017年度が502語であったことを考えると，英文を素早く読み取る必要性を意識した出題が続いていると言えよう。平均点は31.42点で，2017年度（28.11点），2018年度（22.67点：過去最低の平均点）から大きく上昇している。なお，**問１**のcartoon characterの問題は，ユニークな問題として実施直後からニュースでも取り上げられていた。

平均点が上がった理由は，設問・選択肢の語数は増加したものの，2018年度に見られた変則的な応答を求められる問題がなかったことが原因と考えられる。とは言え，正答率が３割に達していない問題が２問あった。

問５　How much will the woman have to pay?
① 1,000 yen　② 2,000 yen
③ 3,000 yen　④ 4,000 yen
読み上げられた英文
W：We'd like to reserve this tennis court.
M：The hourly rate is 1,000 yen before 12 and 2,000 yen in the afternoon.
W：We'll need it from noon till 2 pm.
M：OK.

残念ながら，リスニング問題についてはどの選択肢にマークしたのか，という資料がないので，受験生がどのような間違え方をしたのかはわからない。実際に大学入試センター発表の音声ファイルを聞いてみたが，発音も明瞭で聞き取りづらいところもなかった。しかし，この設問の正答率は２割台にとどまっている。もしかすると，「正午」にあたる表現を男性は12と言い，女性はnoonと言っているために混乱が生じたのかもしれない。計算自体は単純であることを考えると，この正答率は異常である。

問12
① Sounds good. I'll be there in 30 minutes.
② Sounds good. So please deliver it.
③ Well, I don't need another pizza.
④ Well, I haven't decided my order.
読み上げられた英文
M：Hello, ABC Pizza. Can I take your order?
W：I'd like a large seafood pizza delivered.
M：OK. By the way, customers who pick up their order receive 20% off.

問７から**問13**までの**第２問**は，対話を聞いて，最後の発言に対する相手の応答として最も適当なものを選ぶ問題。例年，この**第２問**に苦戦する受験生が多いが，2019年度も同様であった。その中でここに取り上げた

問12は正答率が２割台であった。女性はピザを注文している側であるので，その女性が「30分以内にそちらへ行く」というのが意外な展開だったのかもしれないが，これも理解に苦しむ正答率の低さであった。

☆　☆　☆　☆　☆

例年本稿で指摘している通り，リスニングテストでは，落ち着いて最後まで聞く姿勢が必要で，平常心で試験に臨めるレベルにまで聞き取りの力を高めておかなければならない。対策としては，①文字を見ないで繰り返し聞き，かなりの部分が聞き取れるようになるまで文字を見ない。②問題に答える。③文字を見て，聞き取った内容を確かめる。④音声に合わせて自分でも口に出して言う。⑤書き取る。という一連の練習を積むのが望ましい。①でいう「かなりの部分が聞き取れるようになるまで」というのは，個人的には「９割方聞き取れるようになるまで」と考えている。やはり未知の単語や表現は聞き取ることができないであろうから，そのようなものを除いた部分すべてが聞き取れるまで，ということである。また，⑤の書き取りまではセンター試験では必要ないという意見もあるだろうが，書き取ることによって，聞き取りに対する自信が深まること，語彙力や文法力の向上（聞き取れなかった部分を文法の知識で修復する）や，正しい綴りの定着につながるなど，その効果は大きいと思う。

選択肢の英文をあらかじめ読んでおくことなど，リスニング問題には読解力が影響を及ぼす要素も大きい。そもそも読み上げられた速度で英語を理解できなければ，対話に続く表現を決めることもできないし，聞き取った英語が言い換えられた選択肢が正解となる問題には対応できない。正しく速く読むということは，リスニング問題で高得点を取るためにも必要である。そのためには，筆記試験のところで述べた既習英文の反復読みが効果的である。また，語彙の知識がなければ，せっかく英語が聞き取れても正解を得られないという結果になりかねない。

2　国公立二次試験

（1）概観

2018年度同様の出題形式を踏襲した大学が多かった中，出題形式が毎年のように変わる大学も見られ，受験生に型にはまった傾向対策を立てさせたくない，という意図がうかがわれた。2016年度に現行の学習指導要領を踏まえて，「読む・聞く・書く・話すの４技能の統合」，とりわけ「読む・書く」を意識した意欲的な出題をした大学の中に，出題内容と受験生の学力の間の乖離が見られたためか，2017年度，2018年度とややトーンダウンした大学もいくつか見られたが，2019年度もその傾向は続いている。また，解答や出題意図を公表する大学もあるので，注目していきたい。

2019年度の主要な国公立大で出題形式や内容について目についたものを取り上げる。

東京大：毎年のように出題形式に変化が見られる。2019年度，第１問(B)の文補充問題では，2018年度に出題された長文中の一部分の内容を英語で要約する問題はなくなり，文中からの単語補充問題が出題された。また，第２問(A)は，2018年度の戯曲の引用を読んで思うことを英語で述べるという出題から，新たな祝日を考える問題となった。因みに，同じ趣旨の問題は1993年度に大阪大で出題歴がある。また第４問(B)は2018年度の語句整序問題に代わって，誤文指摘問題が出題された。なお，2018年度に21年ぶりに復活した和文英訳問題，３年ぶりに復活した第５問の小説の出題はいずれも踏襲されていた。なお，2019年度はリスニング問題のスクリプトは非公開となっている。

京都大：2015年度以降，毎年出題形式が変わっているが，2019年度も同様で，2018年度に出題された和文英訳問題と自由英作文の融合問題の出題はなくなり，純粋な和文英訳問題が225字という過去最長の問題文で復活した。また2018年度に第４問に出題された長文の対話文完成の自由英作文は出題されず，代わりに第２問の読解問題中にテーマ論述型の自由英作文（100語程度）が出題された。本文の内容はまったく利用できないうえに，京都大では初めての出題で，白紙に近い答案の受験生もいたようである。

北海道大：第１問の長文の内容一致問題に「本文で述べられている順に」という新たな指示が加わったことを除けば，出題に変化は見られない。2017年度に「日仏の労働環境を比較し日本の長所を書く」という難問の自由英作文が出題されたが，2019年度は「ソーシャルメディアは有益か有害か，あるいはそのいずれもか」という内容で，2018年度同様に書きやすい問題となっていた。読解問題の設問の１つとして出題され，本文がかなりヒントになる。本学特有の対話文の要約文完成問題の出題は2019年度も踏襲されていた。

東北大：2016年度に全体の記述量が増え，客観問題が減ったが，この傾向は2019年度も踏襲され，下線部

和訳と日本語による内容説明の問題が出題されている。下線部和訳問題は基本的な構造把握力を試す出題であるが，受験生全体の出来は今ひとつのようである。自由英作文の問題は，ディベートで相手チームの主張を読んだうえで反対意見を書く，という出題。例年通り，技能統合を意識した出題が続いている。

一橋大：京都大同様に，ここ数年自由英作文の出題形式が変わっており，2018年度のニュースを創作する問題から，2016年度に見られた写真や絵の描写問題に戻ったことが大きな変更点。写真にせよ，絵にせよ，白黒画像では描かれている状況が今ひとつわかりにくい。また，第３問では2018年度の語句整序問題に代わって，正誤判定の問題が出題され，第５問ABとして出題されていた客観式のリスニング問題のうちAが記述式の問題となった。

名古屋大：2018年度同様に，和文英訳問題（2017年度まで出題）の出題はなく，表を用いた自由英作文問題が出題された。特に第４問は問題文の意味がわかりにくく，何を書いていいのか戸惑った受験生も多かったようである。また，2018年度に出題された第３問の読解問題中の自由英作文問題も踏襲されているが，これは10〜15語という短いものであった。

大阪大：いろいろな大学で出題形式が変わる中，際立った変化のまったくない出題が続いている。2017年度にわずかに変化が見られた第３問の自由英作文問題も，2018年度同様に従来のテーマ論述型の問題が出題されている。「あきらめが肝心」「あきらめなければ道は開ける」という２つの考えを示し，自分の考えはどちらに近いかを述べる出題であった。出題内容全体としては，読解系の問題は易しくなり，作文系，特に和文英訳の問題が難化している。

広島大：例年通りの出題。自由英作文では「空き家問題の解消法」が出題された。2017年度の「18歳で選挙権が得られることについての考え」，2018年度の「訪日外国人を増やすための方法」など，本学では，2019年度に限らず，マスコミで取り上げられることの多いテーマが自由英作文で出題されることが多いことが特徴である。日頃から身近なニュースには気を配っておきたい。なお，「空き家の問題点とその解決策」に関する自由英作文は，岡山大でも同時に出題された。

九州大：2018年度には読解の総語数が減少したが，2019年度は増加した。下線部和訳問題の出題は１問のみで，説明問題の数が増加している。第４問で「ながら運転による死亡事故」について述べた200語程度の英文を100語程度に要約し，解決策を50語程度で述べる問題が出題された。また，読解問題の指示文が英語の問題は第３問のみ（2018年度は第２問，第３問）となった。

その他の大学では，金沢大，小樽商科大は解答用紙には英語以外書くことのない出題を続けている。東京外国語大では，読み上げられる英文を聞いて，英文で要約する問題と自分の意見を述べる英作文の出題が続いている。また，名古屋工業大では，合教科・合科目的な問題として，数学と英語の合教科を意識した出題が続いている。

(2) 読解問題

下線部和訳問題の比重はここ数年減少傾向にあるとは言え，主要な国公立大では必須の出題形式である点に変わりはない。また，ここ数年受験生の構文把握力が低下しているのも事実である。ここでは東京大の第４問(B)（ウ）を取り上げる。

> 4 (B)
> ＜前略＞
> （ウ）<u>This philosophy explains their love for a pet that, in many ways, contradicts what we generally believe a pet should be.</u>

子育てについての２パラグラフから成る英文の第２パラグラフの第１文に相当する部分。特に指示語の内容を示すようにといった指示はない。問題そのものがかなり平易な印象だが，日本語で表そうとすると難しい語句が含まれる。例年通り，関係代名詞節の処理が問われているが，ここではwhat we generally believe a pet should beの部分の連鎖関係代名詞節の構造を把握したうえでの和訳と，what ... a pet should beの適切な日本語表現が問われている。

(3) 表現力

2016年に「読む・書く技能の統合」を意識した問題が増え，写真やグラフ，地図などのビジュアル的な要素を取り入れた出題が増えたが，その後は減少を続けている。和文英訳問題の出題には偏りがあるが，東京大や京都大での復活に象徴されるように，主要大学では必須と言えるだろう。ここでは，先に述べたように2019年度に難化傾向にあった大阪大の第４問(A)を取り上げる。下線部英訳問題となっている。

油井にとって宇宙ステーションからみた地球や星々は想像をはるかに超える美しさであった。「あの薄い窓を隔てた外側は死の世界なんですね。宇宙の闇はあまりに深く，そして，その死の世界に言葉にならないほど美しい地球があるんです。とりわけ私にその感情を呼び起こさせたのは，地球を取り巻く大気の薄さでした。周囲は真っ暗な死の世界であるのに，地球は生き物で満ち溢れている。」

外国語学部を除く大阪大の和文英訳問題は全学部共通の問題１題と，文学部とそれ以外の学部に分かれた問題１題の合計２題が出題される。ここに取り上げたのは全学部共通問題。文学部専用のもう１題はこれよりもさらに難度が高い。この問題文は発話の英訳なので，論理的な英文にまとめることが難しいうえに，第２文の「その感情」や「大気の薄さ」などは，前後の文意を考慮して英訳する必要があり，かなりの難度である。

3 私立大学

私立大学では読解重視の傾向が続いており，空所補充，下線部の言い換え，内容一致などが出題の中心である。空所補充や言い換え問題では，単語や熟語等の語彙的知識をそのまま問う場合と，文意を把握したうえで未知の（あるいは難解な）語句の意味を推測する必要がある場合があるので，基本的な語彙力の強化と英文内容の理解力を高めておく必要があるという点では，国公立大の場合と違いはない。国公立・私立を問わず，読解問題の長文化が進んでいるが，客観問題中心の私立大の問題は１題の英文量が多いだけでなく問題数が多いのも特徴で，限られた時間で設問に答えるトレーニングが絶対に不可欠である。また，国公立大以上に，技能統合を意識した斬新な問題が出題されると同時に，ある意味でトリッキーな，言いようによっては運に左右されるような問題が出題されることもある。例えば，2019年度の早稲田大基幹理工学部の第５問は連立完成の単語の補充問題であるが，問題文の指示が複雑なうえに英語で書かれており，暗号のような選択肢であった。また，同学人間科学部の第２問は前置詞と副詞の空所補充問題であったが，NO WORDを含めた選択肢が与えられており，15問中半数近くが，辞書で用法を確認しなければ自信をもって答えられないような問題であった。このような設問形式にでもしない限り，受験生の間で差がつかないからであろうか。また，慶應義塾大医学部では，省略や代用表現を復元する問題，さらには，本文中の語句に引用符（“…”）がつけられている理由を問う問題など，新傾向の出題も見られた。

江本　祐一（えもと・ゆういち）

東大，京大，医進の授業を主に担当。京大英文解釈，京大英作文などのテキスト，京大即応オープンの作成チーフ。出版物は「英語暗唱文ターゲット450」（旺文社），「入試英単語の王道」（河合出版・共著），「センターはこれだけ」（文英堂・共著）など。

知が啓く。
啓林館
URL http://www.shinko-keirin.co.jp/
令和２教　内容解説資料

本　　社　〒543-0052　大阪市天王寺区大道４丁目３番25号　電話(06)6779-1531　FAX(06)6779-5011
東京支社　〒113-0023　東京都文京区向丘２丁目３番10号　電話(03)3814-2151　FAX(03)3814-2159
北海道支社　〒060-0062　札幌市中央区南二条西９丁目１番２号サンケン札幌ビル１階　電話(011)271-2022　FAX(011)271-2023
東海支社　〒460-0002　名古屋市中区丸の内１丁目15番20号ie丸の内ビルディング１階　電話(052)231-0125　FAX(052)231-0055
広島支社　〒732-0052　広島市東区光町１丁目７番11号広島CDビル５階　電話(082)261-7246　FAX(082)261-5400
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院１丁目５番６号ハイヒルズビル５階　電話(092)725-6677　FAX(092)725-6680